



「Catch Ball キャッチボール」～地域に開かれた農場を目指して～

住 所 : 〒014-0054 大仙市大曲金谷町 26 - 9

電話番号 : 0187-63-2257・Fax 0187-62-3434(大嶋農場: Fax 兼用 0187-68-2381)

U R L : <http://www.daino-h.akita-pref.ed.jp>

* 農場便りに関するお問い合わせ農場経営部までご連絡下さい。

金谷農場

農場長より(高橋寿徳)

平成20年度から3年間、文部科学省と農林水産省の推薦を受けて「地域産業の担い手育成事業」を実施し、この春終了いたしました。3年間事業に取り組んだ地域は全国で7地域、2年間は5地域で計12地域でした。

事業は文字通り地域農業(団体)の協力がなければ成り得ない事業でした。本校の取り組みは全国にも高く評価され昨秋、本校の職員・生徒が当事業の全国代表として全国大会で発表してきました。

私は心の底から思うのです。この高い評価は、地域農業の在り方や県や市を初めとした農業行政の取り組みが全国トップレベルにあるということを実感することができました。本当にご協力ありがとうございました。

事業が終了した今年度も、もはや地域の皆さんの力をいただいております。水田部門では生徒の希望から「アイガモ農法」に挑戦することにしました。この取り組みにも、大仙市四ツ屋の高橋様や大仙市内小友のナチュラルスタンスクラブの佐々木様からアドバイスをいただいております。



施設野菜部門より(平塚・高橋恵)

現在ハウスではキュウリ・ホウレンソウが収穫最盛期を迎えています。春先の地震に負けずにまっすぐに育ったキュウリはみずみずしく、生徒が実習で播種したホウレンソウは例年以上に青々して甘みが増しています。ぜひお買い求めください。

トマトの定植が終わりました。ここ数日の気温に恵まれ、グングンと成長しています。7月くらいの収穫開始を目指して40度overのハウス内で格闘中です。収穫できましたら是非ご賞味ください。

露地野菜部門より(佐藤文・佐々木鶴)

ようやく温度が安定してきて、畑にもトマト、キャベツ、ブロッコリーなどの定植が始まり、やっと畑も賑やかになってきました。今年は露地野菜にとって非常に難しい気候が続くと思われませんが、一生懸命がんばりたいと思います。そんな中ニラがようやく大きくなり今後生徒達が街中に販売に伺うと思いますのでよろしく願います。

トマト苗、ナス苗もまだ販売していますのでよろしく願います。

果樹部門より(藤井・工藤)

天候不順で心配されていた開花は、平年よりも一週間から10日の遅れとなりました。そのため、昨年と同時期と比べても果実が小さいです。今後行われる摘果作業は例年よりもさらに丁寧に行う必要があります。また、開花期間は気温が低く、風の強い日が多かったため、訪花昆虫が少なかったように感じます。受精が無事完了していることを祈るのみです。

本校見本園に植えられている「メンデルのブドウ」を寄贈いただいた、本校OBで元秋田県果樹試験場長である鈴木宏先生が、5月14日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

花卉部門より(小松・山代)

温室やビニールハウスの中は、ベゴニアやマリーゴールドのかわいい花があふれています。個人のお客様を始め、学校や幼稚園、保育園、各介護施設などからもたくさんご注文を受けています。大仙市内外を大農生が育てた花々が地域を飾ってくれることを思うと、とてもうれしくなります。

まだまだご注文を受付けていますのでよろしく願います。

食品加工部門より(伊藤寿・瀬田川)

ジャムは最古の保存食!?

スペインの洞窟で、今から1万~1万5千値年前の旧石器時代後期に、人類がミツバチの巣から蜜をとっている風景と、果実を土器で煮ているようすをあらわした壁画が発見されています。果実を蜂蜜で煮たものと想像されています。ジャムは有史以前から人類に利用されており、最古の保存食と推定されています。

今年は大雪でした。大震災もありました。新緑の清々しい季節、美味しいジャムで、元気を出したいものです。今年度もイチゴ・ブドウ・ブルーベリー・リンゴ・キウイ・マーマレードのジャムを製造します。

生物工学部門より(坂本寿・大沼・齊藤・佐藤潤)

生物工学部門では、昨年度に引き続き環境保護事業として、北東北の農業高校生による温暖化防止ネットワークづくりにおいて、学校の中心として活動しています。また、今年度から田沢湖の水質改善のための研究も実施しております。地域の皆様のお役に立てるような研究教育活動に取り組んでおります。

大嶋農場

大家畜部門より(芳賀、佐々木一)

大家畜部門では、現在、黒毛和種成牛4頭、子牛1頭を飼育しています。

3月6日に生まれた「大農松」号は、食欲旺盛で母牛の乳はもちろん、乾草や稲わらもたくさん食べ、角も2cmくらい出てきました。来月には3ヶ月齢になるので、そろそろ離乳する準備を始める予定です。離乳の時は、母牛は乳房がはれ子牛に飲んでほしくて鳴き、子牛は飲みたいのに母牛がいないよ~と鳴きます。声がかれるほど鳴くとおさまるのですが...。かわいそうですが1週間は鳴くでしょう。

成牛は、発情周期を確認しながら人工授精をしているのですが、まだ妊娠鑑定まで進んでいません。これが今の畜産部門の悩みのたねです。とりあえず来週始め、獣医さんに相談してみます。

中家畜部門より(堀部、小林)

早苗振へ向けて飼育している1月生まれの8頭は体重100kg近くまで成長しています。

あと2週間ほどで出荷になりますので最後までしっかり育てます。

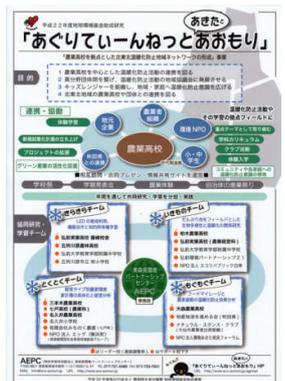
4月10日生まれの6頭も可愛い盛りですので大嶋農場豚舎に見に来て下さい。

小家畜部門より(田口健一、富樫)

「大農ひろば」にもあったように、5月18日に水田の除草部隊として、アイガモのひな20羽が入りました。ふっくらしていて、とてもかわいいです。大嶋農場に足を運んで是非ご覧ください。

作物部門より(高橋寿・佐々木周、黒田)

5月24日(火)より、8.4haの水田の田植えが始まりました。環境に配慮した側条施肥ができる田植機で行っています。31日(火)には1年生173名による手による田植えがあります。仙北中学校76名、ALT5名も参加予定です。



生徒も田植機に載って
田植え実習です。
(E水田)